

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
1	横手病院 総務課	人事評価制度の構築・運用	A	現在、試行で行っている人事評価制度の見直しと制度の再構築(完全実施)	全職員(医師も含む)を対象とした人事評価制度の運用。	平成27年12月までに施行用の評価表を構築し実施。 平成28年度からは完全実施。	平成28年度からは、評価結果を基に処遇面への反映を目指す。	・人事課より現行制度の聞き取り及び問題点等のレクチャーを受ける。 ・各種研修会等へ参加し、情報、手法等を習得する。 ・人事評価制度導入済の病院から情報収集をする。 ・評価者研修の実施を行う。	人事課や他の病院からレクチャーを受け、病院独自(一般行政職を除く)の評価表を作成した。	評価者研修等を行い、公平性の高い評価を目指す。 業績評価については、今年度実施は見送りとなった。 処遇面への反映についても引き続き検討していきたい。	能力評価については、全職員(医師、嘱託職員を含む)に対して実施。 行政職以外の評価表については、他の病院の評価シートを参考にし、作成した。(行政職の評価表は、市と同様式)	評価者研修については、医師を除く職員に対してH28.1月に実施した。	能力評価については、試行という形で実施したが、処遇面への反映については、今後の課題になっている。 業績評価については、準備不足の面があり実施できなかったが、H28年度からは実施できるような早い段階で説明会を開催予定である。 人事評価を行うことは、業務への意欲向上、知識向上にもつながり、病院の資質向上につながると思われる。
2	横手病院 総務課	原価計算実施の継続及び材料費の節減に向けた取り組み	A	原価計算の実施件数を増やし、さらなる分析を試みる。 材料費の分析を行い、コンサルの活用を含めた節減への取り組みを行う。	原価計算については、実施する事例を増やし、データを分析する。 材料については、現状の把握と改善策の実施。	平成28年3月末	原価計算の事例を診療科ごとに実施。 材料費の分類ごとの分析。	・院内実務担当者による勉強会を実施し、現状の分析、問題の提起を行う。 ・材料費の分類ごとの分析を行い、節減に向けた対策を練る。	原価計算については、2症例について実施しており、診療科ごとまでには至っていない。	さらなる原価計算の実施を行うとともに、同種同効品の縮小を目的とした材料費の節減実施していく。	原価計算については上期の2症例実施に留まってしまった。	同種同効品の縮小に関しては、3種類の静脈留置針を2種類へ縮小する為に診療材料検討委員会及び院内感染対策委員会での協議・評価を実施。	安全機能の留置針を採用した為、材料費は若干コスト増となってしまったが、保険償還額と比較した場合、年間の収益が約18万増となる試算額が出た。また、安全機能が付いていることにより、針刺し事故防止への安全対策が高まった。

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標達成時期 (いつまでに)	目標値 (どの水準までとする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現状】 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	【ギャップと対策】 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	①達成値・実績値 (目標の達成状況・ 現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
				1	横手病院 医事課	利用病床185床(全病床数225床 利用率82.2%)の確保	A	急性期(一般)病床の利用 率80%、地域包括ケア病 棟の利用率90%の確保	H27.3における数値は 全体で79.0%、急性期 病床 77.7%、地域包 括ケア病棟83.9%	年度内の早期	目標値は年間平均の数値で ある。各月においては増減があ るものと考えられるが、経営健 全化のためにも、早期に目標値 を達成して、その維持・継続を 図る。	地域の病院・診療所・介護施設・ 行政等との連携を更に図り、地域包 括ケアの具体化に寄与する。 きめ細やかな患者対応をいっそう を進め、地域包括ケア病棟の効果 的な運用による在宅復帰への支援 を図る。	一般病床の利用率は77.7%で達成 率は97.1%、ケア病棟は79.2%で達 成率は88%といずれも未達となっ た。新規入院患者は増加したが、一 般病棟の平均在院日数は11.2日と 病院目標の12日より短く、利用率が 目標に達しなかった。
2	横手病院 医事課	病院原価計算実施への準備	B	診療科別原価計算を行う ためのデータの整備、収集 を行う。	H26年度実績について 検討する。	平成28年3月末	H26年度において当院の代表的 症例として「腹腔鏡下胃全摘術」 「腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術」 で使われた材料のピックアップ を行った。これらの症例の手術 の際の費用と収入について分 析を進めており、その手法や結 果を院内にフィードバックし、他 の症例、診療科における原価計 算の実施へ向け準備を進め る。	手術で使用される材料の中でも、医 療保険で請求できる材料と、手術手 技に含まれる材料や衛生材料等の 状況把握を更に進める。また、検討 した内容を材料購入時の価格交渉 に使用し、費用抑制につなげる。総 務部門と協力して人件費や光熱費 等の経費を含めた原価計算が出来 るようにデータ収集、分析を行う。	院内全体で「収益改善委員会」が立 ち上げられ、①収益確保・請求漏れ 防止対策関係WG②給与関係WG③ 診療材料・医薬品関係WG④委託業 務・省エネ・一般経費関係WGの4つ のDWGIに医事課職員も配属された。 上半期で2～5回の会議、検討が行 われおり、その中で原価計算実施 に向けての検討も行われた。	WGでの議論を中間報告として10月 中に報告し、実施できるものは速 やかに実施するとともに、今後、実施 するものについては整理、検証を引 き続き継続する。また、10/28には 医療経営分析ソフトの提供会社の 協力を得て、現状でのデータでの原 価計算等のデモンストラーションを 進める。	平成26年度の分析については、 現場へフィードバックして対応を図 った。診療科別原価計算の実施につ いては、引き続き、検討を進めるこ ととなっている。	診療科別原価計算の実施に向けて は、10/28に当院にDPC分析ソフトを 納入している医療経営分析ソフト会 社の原価計算ソフトに7月分の医療収 益、経費等のデータを入力し、分析を 行った。得られるデータが経営指標や 改善につながると考え、ソフト導入の ための予算要求を行ったが、費用対 効果等の観点から28年度での導入は 見送りとなったものの、情報収集を継 続している。	直接的には目標達成とはならなかつた が、収益改善に向けたWGの活動が行わ れ、具体的なデータを改めて収集、分析 し、医療収益の増加と経費削減が図られ ており、引き続き、診療科別原価計算を 行うことが出来るように院内環境等の整備 を図って行きたい。